

Title	アダム、スミスの植民論
Sub Title	
Author	堀切, 善兵衛
Publisher	三田学会
Publication year	1911
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.5, No.3 (1911. 4) ,p.301(91)- 316(106)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	アダムスミス記念号
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19110415-0091

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「を評する冒頭の一句に、

Plato is Philosophy, Philosophy Plato.

と申して居りますが、爾來の經濟學上に於ける一切の學說の淵源一切の萌芽が單にスミスの此一著國富論の中に認めらるゝ點から申せば吾々はエマソンと同様にスミスを評して、

Adam Smith is political economy, political economy Adam Smith.

と申すも決して過言でなからうと思ひます。

アダム・スミスの植民論

堀切善兵衛

アダム・スミスの紀念會に臨んで、はしなくも思ひ出づるのは曾て私がエジンバラにスミスの墓參をした時の事である。即ち去る四十年の夏で有つた某貴族院議員が倫敦にやつて來て英國旅行の同伴者を求めて居られた。幸ひ學校が休暇中なので私が案内旁スコットランドに同伴する事となつた。エジンバラに着いたのが七月の廿日舊城址大學スコットの紀念碑等を見終つて尙ほ此處のカノングート、チャーチと云ふのにアダム・スミスの墓が有ることを知つて居たので是非是れに詣で様と考へた。由つて例の貴族院議員を促して同道し様としたが此人はアダム・スミスとは何物で有るか少しも御承知がないので容易に應じ相にもない、由つて世界第一の經濟家のお墓が有るから行つて見やうと持ち掛けて見た所が早速同意せられたので方々捜し廻つた後でカノングート、チャーチを見附けた。元より小さな寺院で何等貴族院議員の目を喜ばしむるに足るものは無かつた。

のである、又目指せるスミスの墓と云ふのも頗るお粗末なものにて私は手帳の端に其スケッチを取つて來たが丁度學校の黑板位の石碑の周圍に少しばかり直線や曲線の飾りがして有る其中にスミスの顔か否かは知らざれども人形の顔が一つ彫まれて其下に Here are deposited the remnants of Adam Smith 5th June 1725

7th July 1790

と書いてあつた、多年の風雨に打たれ霜雪の間に立つて來たので華麗壯嚴の影などは少しもない貴族院議員は頗る物足らぬ様子で語り出したのである、曰く、世界第一の經濟家となつたらば今少しは立派な墓を作りたるが宜からずやと玆に於て乎私は少しくアダム・スミスに就て説明するの必要を感じたので有つた、當時私は何を語りたかは多く記憶して居ない。唯一ツ覺えて居つて今でも尙是れを繰返すの無益に非らざるを信ずる一段がある、夫れは要するにアダム・スミスは近世經濟學の泰斗である彼の著書に依りて獨り英國民のみならず世界の各國民は非常に利益を蒙つたのである、然し彼れの一生は決して富めりと云ふ能はざるのである、其晩年は一年九千圓ばかりの収入を得て兎に角に學者として何不自由なく

生活したに相異ないが其死後に多大の財産を残したりとも聞かない、彼は其經濟學に依りて世界の人類を富ましめた、然し彼の一身は決して富めりと云ふこと能はざるのである、彼の墓石は寧ろ見るに足らざる粗末のものに過ぎざれども彼が二十有七年の間心血を吐露して書き上げたる富國論は百載の後尙學者の推重して措く能はざるのみならず彼の説に傾耳して其經濟政策を改め其植民政策を一變するに至りたる英國民は今日其富强世界に冠たる有様である、かの英蘭銀行、かのドレットノート、孰れか是れスミスの紀念にらざるものぞ、して見ればスミスの紀念は英國内至る所に見出さるゝ次第で有つて決して其墓石の華麗ならざるを恨むに足らぬのである、我輩亦スミスの流れを汲み經濟學に志す者恐らくは其經濟學に依りて一身一家を富ますは稀れであらう、然かし吾人の研究が聊かたりとも日本の社會もしくは世界人類の物質的幸福を増進する上に於て少しにても貢獻する所有りたりとせんか吾人は多大の幸福を感じざるを得ない云々と語つたのである。

即ち是れは世上動もすれば經濟學に志す者を以て貨殖の道に専心なるものと誤

解する恐れあるを以て一言自ら辯じたる所以であつて我輩經濟學者は人類の幸福をこそ唯一の目的とすれ一身一家の爲めには何等特別の注意を拂ふことなき次第である。

扱て私の今日主としてお話をせねばならぬ點はアダム、スミスの植民論に就てあるが私はスミスが富國論を編むに當つて植民に關しては非常に重きを置いたと云ふ事を先づ一言したいと思ふ其證據には植民に關しスミスの論じたる部分は随分長いので第四篇の第七章及び第八章のマーカンデリズムの結論此二章九十餘頁は主として植民及び植民政策の議論で有るのみならず、一七八三年北米合衆國の獨立が愈々承認せられた其翌年富國論の第三版が出来上つたので有りませが此版に於てスミスは頗る訂正増補を加ふるに至つた其以來の富國論の最後の結論之れが又植民政策の論で有るのであります、試みに富國論の最後の頁を開いて御覽なさい。

It is surely now time that our rulers should either realize this golden dream, in which they have indulging themselves, perhaps, as well as the people; or that they should awake from it themselves,

and endeavour to awaken the people. If the project can not be completed, it ought to be given up. If any of the provinces of the British Empire can not be made to contribute towards the support of the whole empire, it is surely time that Great Britain should free herself from the expense of defending those provinces in time of war, of supporting any part of their civil or military establishment in time of peace, and endeavour to accommodate her future views and designs to the real mediocrity of her circumstances.

と云ふのが最終で有つてドレだけ植民地問題が彼の念頭を支配して居たか、解かるのである。元來無理もなき事で富國論の出版せられたのは一七七六年の三月九日米國獨立の宣言は同年七月四日の事でありませれば獨りスミスばかりでなく當時の英國民に取りて植民地問題は實に重大問題で有つたに相異なる、此スミスの植民に關する意見を今日詳細に紹介批評するは到底出来ない事で有りませれば仔細は諸君の御研究に委ぬるとして私は大體の綱目だけを述べて見様と思ふ

スミスは第七章植民論を三部に分つて居る、即ち第一は植民地設立の原因を論

96

じたるもので有つて此處には希臘及び羅馬の古代植民地が如何なる動機に依りて建立せられたるか理由が詳細に説明して在る、スミスは演譯的議論は成るたけ避ける方で主として歴史上の事實に基いて議論をして居るのである。されば此節に於ても極めて有益なる事實上の記事に富んで居るのであるが之れは詳しく紹介する必要は無いのである。

第二節は新開植民地の發達が顯著なるもの有る其理由如何との點を論じ殊に英國の植民地が自餘の諸國即ち西班牙、葡萄牙、和蘭、佛蘭西等の植民地に比して發達の迅速なるものが有つたのは何故であるかと云ふことを論じ其理由として左の諸點を擧げて居る。

一、英國植民地にては佛國植民地のセエニョーリアル、システム、西班牙植民地のエンコミンダ、システムの如き少數の貴族富豪等に大なる面積の土地を割與することなかりしを以て新來の移民に對し絶えず相當の土地を與ふるを得ること。

二、土地の讓渡賣買が比較的に自由なりしこと、従つて土地の耕耘善く行はれた

ること。

三、植民地の經費最も少額なりしこと。

四、英國の植民政策は例のマーカンテリデムを出でざりしも佛西其他の諸國に比し一層自由寛大なりしこと。

但し英國初め自餘の歐洲諸國が南北兩米に於ける其植民地の發達成長の爲めに積極的に大に貢獻したる所ありや否やと云ふと下に詳述するが如く其政策は主として本國の利益のみを追及するに急で有つたが爲め植民地の利益は其犠牲に供せられた事が多く植民地は其自由なる發達を阻害せられたこと寧ろ多大なりしと云はざるを得ない、されば歐洲各國が其植民地の爲めに大に貢獻したる點は唯斯る有爲有望の移民を供給したる本國で有りきと云ふに止まると論じたのである。

In what way therefore, has the policy of Europe contributed either to the first establishment, or to the present grandeur of the colonies of America? In one way, and in one way only, it has contributed a great deal. Magna Virum Mater! It bred and formed the men who were capable

97

98 of achieving such great actions, and of laying the Foundation of so great an empire; and there is no other quarter of the world of which the policy is capable of forming, or has ever actually and in fact formed such men. The colonies owe to the policy of Europe the education and great views of their active and enterprising founders; and some of the greatest and most important of them, so far as concerns their internal government, owe to it scarce anything else.

最も斯る意見を抱いて居つたのは獨りスミスばかりでは無い米國植民地問題が議會で八ヶ敷くなるに従ひ、心ある人々は本國が餘りに自家の利益を先きにして植民地の利益を犠牲にするの非を論じたのである、即ち一七六五年グレンヴィルの印紙條例を國會に提出するや、議場には種々の議論沸騰し、就中コロネル、パールの如きは其論敵が米國植民地こそは、

Children Planted by our care, nourished by our indulgence, and protected by our arms ぞ有るから其戦費の一端を負擔せしむるは敢て不條理に非らずと論じたるに對して、

They planted by your care! No, your oppression planted them in America. Nourished by your indulgence! they grew up by, your neglect of them. They protected by your arms! Those

son of liberty, have nobly taken up arms in your defence.

と答へた程で有つたれば、況してスミスの以上の結論に達したるも無理もなき次第と云はねばならぬ。

植民論の第三節に於てスミスは本國が植民地より得たる利得に就て論じて居る而して此點に關しては先づ歐洲諸國全體が一般に受けたる利益と各國が夫れ夫れ受けたる利益若くは受けんと期待したる利益に區別して論ずるの必要ありとて詳細に是れを記述して居るが、其結果は前者に於て歐洲各國は疑ひもなく非常に利益を得た、但し後者に於ては多くは失敗失望に終つたと論じて居るのである。

99 即ち一般的利益としては歐洲各國民が亞米利加の開拓せられたるが爲め従前よりも多額の金銀寶玉等を有することとなり、又從來見たこともなき各種の貨物を米國より輸入して之を使用消費することが出來たと同時に本國の生産物は新たに米大陸に販路を得て盛に賣れ出すに至りたる事、爲めに直接亞米利加に植民地を有せざる國と雖も其産物を間接に新大陸に送るを得るに至りしこと、果ては

匈俄利波蘭の如く植民地と何等の通商關係を有せざる國と雖も其隣國が經濟上に發達したる餘惠を受けて同じく利益を得る事等を擧げた要するに米大陸植民に依りて歐洲全體の國民は少なからざる益を受けた事を論證した、反之歐洲諸國が得んと欲したる特殊の利益は如何で有つた乎と云ふに先づ古は如何なる國でも植民地或は屬領地等を取すれば必ず其土地より兵士を徵集して本國の防衛力を大ならしめんと欲するか、然らざれば其土地より貢賦を徵集して本國の財政に資せんとするの常で有つたが此二點に關し近年の植民地は概ね本國の期待に應ずることが出来なかつたと云ふので、先づ歐洲諸國が軍事上に亞米利加植民地の人民を募集し來りて米國の防備に任じたることの無かりしこと、否本國は却つて植民地の防禦の爲め多數の兵士を要したりしことを述べ、次で西班牙、葡萄牙の如き其植民地よりの収入を以て本國の國庫を富ましめたることなきに非らざりしも、それは決して永續せず、殊に英佛諸國に至りては植民地の爲めに却つて國庫の負擔を増し植民戰爭の結果莫大の國債を増加するに至りたる事實を擧げて此點に關しても歐洲列國は失敗に外ならざりしと論じて居るのである。

以上の點に於て失敗を繰返すに過ぎざりし歐洲各國民は更らに他の方面に於て植民地より多大の利益を得つゝ有りと信じて居た、即ち所謂マーカンマイル、システムを盛に實行して植民地の通商貿易を獨占し、以て間接に本國は莫大の利益に浴しつゝありと信じて居たので有る、所がスミスは此マーカンマイルこそ本國を利益すること少なく又植民地の自然の發達を阻止したるに過ぎずとの説で有つた、即ちスミスの意は歐洲諸國は其植民地貿易に依りて利益を得なかつた譯ではないが、然かし其獨占壓抑に依つて害を受けて、自由貿易なりせば、より多大に受け得たりしならん其利益を收むる事が出来なかつたと斷定して居るのである、而して此章に於て、及び此次ぎに來るマーカンマイルに對する結論に於てスミスが一々實例を擧げて攻撃して居る Colonial monopoly 及び特許、特權保護金、獎勵金、割戻金等に對する意見は今日の我國の實際問題に對照して研究すれば實に興味津津たるものが在るので思はず案を打つて快哉を叫ばしむることが多いのである、スミスの議論に従へば本國が植民地貿易を獨占する爲めに生ずる結果は

101. 1. This monopoly has been continually drawing capital from all other trades to be employed

102 in that of colonies.

2. This monopoly has necessarily contributed to keep up the rate of profit in all the different branches of British trade higher than it naturally would have been, had all nations been allowed a free trade to the British colonies.

で有ると稱して居る又スミスは植民地貿易は隣國貿易又は内地商業に比して利益少なきものである何となれば資本の回轉が頻繁なる能はざるからである然も國內の商人が争つて植民地貿易に従事せんと欲するは人爲的に植民地貿易者の利潤を多大ならしめて居るからである而して其利潤の多き事は一般資本の利子を騰貴せしめ生産費を増加せしめ地價を下落せしめ勞銀を低廉ならしむる所以で有つて孰れも不利なりと論じて居る。

The monopoly of the colonial trade, therefore, like all the other mean and malignant expedients of the merchantile system, depresses the industry of all other countries, but chiefly that of the colonies, without in the least increasing, but on the contrary diminishing that of the country in whose favour it is established. と在る如くである即ち貿易の獨占各種のマーカントリズム

の手段方法は先づ他國の利益を傷け更らに多く本國の利益を害し就中多く植民地の利益を犠牲に供したるに過ぎずして唯獨り其利益に浴したる者は國內一部の商人輩に過ぎないと云ふのである。

It is thus that the single advantage which the monopoly procures to a single order of men, is in many different ways hurtful to the general interest of the country. 更らにスミスは一國が唯徒らに一部の製造工業家植民地貿易當事者の利益を大ならしめんが爲めに一般國民は高價の物品を賣り付けられ負擔を増加せしめられ生活費を加重せらるゝに至りし弊害を列擧して左の結論に達して居るが其論旨は蓋し萬世不易の眞理として我輩の傾聽する所であるのみならず特に今日の我國に取つては頂門の一針たる價值ありと思はるゝのである曰く、

Consumption is the sole end and purpose of all production: and the interest of the producer ought to be attended to, only so far as it may be necessary for promoting that of the consumer.

The maxim is so perfectly self-evident, that it would be absurd to attempt to prove it. But in the merchantile system, the interest of the consumer is almost constantly sacrificed to that of producer;

104 and it seems to consider production and not consumption, as the ultimate end and object of all

industry and commerce. 斯る制度の下に Great Britain derives nothing but loss from the dominion which she has assumed over her colonies との判断に達したのは無理もなき次第である。果して然らば當時の植民政策を如何に改良刷新せしめたるが宜いのである乎と云ふに我輩は先きに既にスミスの最後の一句を引いた通り彼は全然無用の長物に等しき植民地を放棄して以て本國は其負擔と危険とを免かるゝか、但しは其方針政策を一變す可きか、兩者其一を選ばざる可からずと論じて居るのであるがスミスは其本心より植民地を放棄し去る可しとは毛頭思はないのである、否國家の名譽に掛けてざる事の出來得可からざるを主張するのである。

The most visionary enthusiasts would scarce be capable of proposing such a measure with any serious hopes at least of its ever being adapted と有るが如くで有つて彼の本旨は政府をして從來の誤りたる政策を擲たしめ植民地の人民を直接英國々會に列するを得せしめて是れと同時に英帝國の防備維持に必要な經費の一部を各植民地をして負擔せしむ可しと論じたので有つた。

In order to render any province advantageous to the empire to which it belongs, it ought to afford in time of peace, a revenue to the public sufficient, not only for defraying the whole expence of its own peace establishment, but for contributing its proportion to the support of the general government of the empire.

而してスミスの細心なる如何なる種類の租税は植民地人民より之を徴收するに於て最も適當なりやの點に就ても詳しく説明して居るけれども今は總て之を略する、斯くして植民地は英帝國維持の爲めに其經費の割前を支出すると共に此經費の負擔割合に應じて議員を國會に出す可しと論じて居る、而して亞米利加植民地が將來ますます發達するに於ては其議員の數も本國選出議員の數を凌駕するに至る可ければ其曉には英國の首府は大西洋の彼岸に移すも敢て差支なからんとの事の有つた。

Such has hitherto been the rapid progress of that country in wealth, population and improvement, that in the course of a little more than a century, perhaps the produce of American might exceed that of British taxation. The seat of the empire would then naturally remove itself to that

106 part of the empire which contributed most to the general defence and support of the whole.

幸か不幸かスミスの此理想は實現せられなかつたのである。米國は遂に獨立を遂げた英國の首府は今も依然としてテムズ河畔に存するのである。さりながらスミスの理論に説破せられ合衆國の獨立に依りて實物教訓を與へられたる英國民は遂に傳來のマーカントailsシステムを擲ちて光榮ある自由貿易主義に移つたのである。加奈陀、濠洲、南亞等の各植民地はスミスの立案とは頗る異りたる形式を取つて進んだのである。然も彼の主張に係る植民地貿易の開放と本國民と植民地人民との待遇の平等とは毫も彼の旨意に反せずして立派に成就せられたのである。唯一つ植民地が自由貿易論の泰斗たる彼に背きて保護制度を採用するに至りたるは寧ろ彼の喫驚する所ならんも、是れに依りて其植民地の人民は満足しつゝあるを見れば彼は苦笑を洩すに止まるであらう。而して植民地が大英帝國の防衛維持の爲めに經費の一部を支出す可しとの點も既に或程度まで實行せられるのみならず、將來は益々其範圍を擴張せんとする傾向將に明かなる次第なればスミスも亦瞑するに足るのである。

アダム スミスの財政學

星野勉三

アダム スミスが經濟學の鼻祖なる事は何人も知る所なれども、彼は又財政學の組織者なる名譽をも併せて擔ふ可き者にして、尤も其の以前には獨逸に官房學者あり佛國に重農學者ありて、各獨特の財政論を試みたれども、未だ以て組織立ちたる學問と稱する程のものを生ずるに至らざりき。然るにスミス出づるに及びて茲に初めて稍々財政學と稱し得可きものを生ずるに至り、其の學説は延て十九世紀の中葉に至る迄歐羅巴の學界を支配するの勢力を有したり、されば彼の財政學説の研究は財政學史上最も興味ある問題にして、又實に近世財政史の研究とも稱する事を得可きものなり。以下余輩は本論を三分して先づ第一にスミス以前の學説を簡単に紹介し、次にスミスの學説を叙して其以前の學説に對して如何なる特色を有すかを示し、終はりに及んで現今の財政學上スミスの學説は如何なる價値を有するかを述べんとするなり。